

平成 30 年度 岡山県農林水産総合センター-森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた  
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った  
 1：成果が得られなかった

番 号	30-事後-1						
課題名	コンテナ苗を用いた低コスト造林技術の確立						
課題の概要	近年、従来の裸苗（普通苗）より、植栽しやすいマルチキャビティコンテナ苗（以下 コンテナ苗）が開発された。そこで、岡山県内において、コンテナ苗の植栽箇所における生育状況を把握し、今後のコンテナ苗による低コスト造林を推進するための基礎資料とする。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成度	人	2 人	3 人	1 人	人	3. 2
	有効性（効果）	人	1 人	4 人	1 人	人	3. 0
	有効性（目的以外の成果）	人	2 人	4 人	人	人	3. 3
	効率性・妥当性（費用対効果）	人	1 人	4 人	1 人	人	3. 0
	効率性・妥当性（計画）	人	1 人	5 人	人	人	3. 2
	成果の活用・発展性	人	3 人	1 人	2 人	人	3. 2
	総合評価	人	1 人	4 人	1 人	人	3. 0
助言・指摘事項等	<p>1 実施のための制約により仕方が無いが、コンテナ苗と裸苗との比較が十分では無く、有為な差を検証できなかったように見受けられる。目的は非常に有意義な研究と感じられるため、今後の改良を望む。</p> <p>2 コンテナ苗による再造林等に向けて、基礎技術が確立できた。今後も、追跡調査等を実施してコンテナ苗の普及に努めてもらいたい。</p> <p>3 課題名の「造林技術の確立」までは至っていないが、技術の確立には全国的にみてもまだ時間を要する。達成目標が「今後のコンテナ苗による低コスト造林を推進するための基礎資料とする」とあり、目標は達成したと思う。こうした基礎資料の積み上げが実用化に向けた第一歩となるよう期待する。</p> <p>4 多くのデータを取得し解析して結果を出していることは大変評価される。達成状況では、結果に問題があり今後もっと検討する必要がある。普通苗とコンテナ苗の比較、およびコンテナ容量の比較では、異なった立地での結果を比較しているので、今回の結論を導くことは困難である。結果としては、そのような断り付の結果であり、今後の検討を待たねばなりません。むしろ、異なった立地間でコンテナ苗の活着や生育状況を比較し、コンテナ苗に対する立地の影響を解析すると有用な成果が得られると思う。侵入植生の影響と下刈り作業への提言は有用である。</p> <p>5 伐期を迎えた林分の皆伐再造林一貫施業に期待ができる。今後は普通苗に比べ2倍する価格を下げる必要がある。</p> <p>6 今後ますます普及が見込まれるコンテナ苗植栽のケーススタディとして、引き続き、同様なデータの収集、蓄積を進めて頂きたい。今回は秋植えの事例であったが、春植えや夏植えの事例、植栽されたコンテナ苗の根鉢等の状況や品質の把握、健全率が低い場合には掘取って苗木の状況を確認する等追加調査も検討して欲しい。</p>						

平成 30 年度 岡山県農林水産総合センター-森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

< 中間評価 >

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当  
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い  
 1：中止すべきである

番 号	30-中間-1						
課題名	岡山甘栗の栽培技術の確立						
課題の概要	「岡山甘栗」は、当研究所が育成した、甘みが強く、渋皮離れがよい品種である。また、従来の日本栗栽培に比べ、省力栽培が可能であることから、現在、全国的に大きな問題となっている耕作放棄地対策にも非常に有効であると考えられる。そこで、「岡山甘栗」の栽培技術を早急に確立するとともに、現在、JA勝英や市町村等が進めている勝英地域を中心とした産地化を支援し、早期の安定生産・供給を実現する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成可能性	人	2 人	4 人	人	人	3.3
	〃（阻害要因）	人	3 人	3 人	人	人	3.5
	必要性	1 人	5 人	人	人	人	4.2
	有効性	人	6 人	人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	2 人	3 人	1 人	人	3.2
	総合評価	人	6 人	人	人	人	4.0
助言・指摘事項等	1 新しい県の特産物として期待でき、研究を継続し、生産を多くの農家に普及できるよう努力していただきたい。 2 国産甘栗による「安心・安全」のイメージの拡大を目指し、JA・生産者・焼き栗製造事業者と十分な連携をしながら、生産量拡大と産地化形成の為に研究・技術普及をお願いしたい。 3 品質低下の問題が発生したことから、平成32年度まで研究期間を延長することは妥当であるが、腐敗果率調査からどのように品質向上へつなげていくかを明瞭にして欲しい。品質向上もふくめた栽培マニュアルの改訂版に期待する。 4 試験研究は精力的に実施されており大変評価できる。最も主要な目的は栽培技術の確立である。そのため、収量調査と生育状況調査からの知見によってどのような技術が確立されるのかについて見通しを早く立てる必要がある。接ぎ木による技術では、実験的に様々な方法を試す必要があるのではないか。また、キセニアは重要項目であると思うが、逆に日本産クリへの影響についても考慮し調査する必要があるのではないか。 5 哲西栗が注文に応じきれていない状況下、栽培技術の早期確立を期待する。また、クリタマバチ等の防除を徹底し、品質向上と収量増に期待する。 6 これまでの長年の研究の蓄積を活かして、新たな品質問題等の解決に速やかに取り組んで頂きたい。易渋皮剥皮性はニホングリの中にも見つかри、新品種の開発と普及が進んでいることから、岡山甘栗の普及は厳しい競争にさらされる可能性がある。これに対抗するため、さらなる差別化、ブランド化が図られることを期待する。						

平成 30 年度 岡山県農林水産総合センター-森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当  
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い  
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	30-事前-1						
課題名	高齢級人工林の資源量推定に関する研究						
課題の概要	<p>「21 おかやま森林・林業ビジョン」では、豊富な森林資源の循環利用による林業の成長化に向けて、木材の利用推進が重点戦略の一つに掲げられている。</p> <p>本研究は、標準伐期齢を超えたスギ・ヒノキ人工林について、資源量の把握とともにその多寡に影響する成林過程における因子の解明を目的とする。</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	4 人	2 人	人	人	人	4. 7
	有効性	人	4 人	2 人	人	人	3. 7
	効率性・妥当性	1 人	2 人	2 人	1 人	人	3. 5
	総合評価	1 人	4 人	1 人	人	人	4. 0
助言・指摘事項等	<p>1 森林資源の適正管理のために必要な研究と考える。研究成果を森林簿等に反映できることを欲する。</p> <p>2 研究成果が県の資料に反映されるよう、関係機関と連絡を密にして取り組んでいただきたい。</p> <p>3 収益性の関係から伐期を延長せざるを得ない林分が出てくる中、どのような条件が高齢級誘導に適するかを明らかにすることは重要と思う。ただ、研究内容(2)「資源量の方に影響する因子の検討」で解析方法が漠然としており、目標達成の道筋がイメージしづらかった。具体的な計画や解析法を十分吟味のうえ推進することを望む。</p> <p>4 林業が現在おかれている状況、および林業が今後進むべき方向を考えると、現在の高齢級人工林をいかに利用し持続的な林業を達成するのが極めて重要な課題である。そのためには、本試験研究の課題である高齢級人工林の資源量推定は基礎として極めて重要な役割を持っている。その意味で本研究は大変意義深い。特に高齢級人工林でその資源量にばらつきがあり、そのばらつきの要因を解析するという着想は、今後の利用を考えるうえで有用なものである。要因として想定している施業履歴で伐根情報を使うという発想も興味深く、興味深い資源量推定モデルが構築されることを期待する。</p> <p>5 利用間伐が日々行われ資源量に変化している中で将来予測が極めて困難な状況である。航空レーザ計測は精度が高いので、立木材積の推定に効果がある。</p> <p>6 高齢級人工林の資源量のバラツキに影響する立地や施業履歴等の因子の解明は、森林経理学的にも興味深い課題だと思う。調査結果をどのようにして岡山県全域の資源量把握に結びつけるのか、意識しておく必要がある。また、どの程度の精度で資源量が推定できれば良いのか、根拠のある現実的で具体的な目標を示して取り組んで頂きたい。</p>						